

ラグビーにおける数的優位時の攻撃パターンの分析

東京情報大学 総合情報学部
情報文化学科 石井ゼミ 4年
C05142 増田健吾

目的

数的優位時の攻撃方法や個々の動作を観察し、より良い攻撃方法、動作を分析し改善方法を検討した。

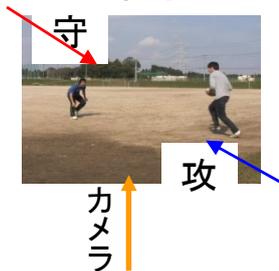
分析方法

被験者に攻守2対1に別れてさせ守備を抜く実験を行った。

被験者データ

	身長 (cm)	体重 (kg)	経歴 (年)
河口 (a)	175	65	0
野村 (b)	174	72	3
増田 (c)	185	76	3
引地 (d)	175	57	0

撮影方法



分析考察

今回の実験で比較分析行ったところ、攻撃成功時のA、Bともに守備をひきつけることによってスペースが生まれ、そこにパスをすることによって抜くことができていた。

失敗時はE、Fとも味方方向に流れて(*)しまったので味方が走るスペースがなくなってしまった。敵をひきつけスペースをあけるということが重要である。

今回の実験では未経験者もおおりパス、動作について十分な実験はできなかった。そして具体的な動作分析は現在進行中である。

攻撃成功時



bがdをひきつけたことによりaの走るスペースがあいた



cがdをひきつけbが外側に広がったためスペースがあいた



cがdとの距離を完全につめる前にパスフェイントしたためスペースがあいた

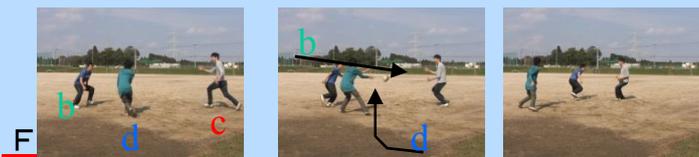
攻撃失敗時



dが早くパスをしてしまったためaが走れなくなってしまった



aがdの方向に流れ(*)パスしたため走るスペースがなくなってしまった



dがcの方向に流れ(*)パスしたのでbが目の前に来てしまった

* 流れるとは、味方方向に近づいていき味方の走るスペースをなくすこと。